

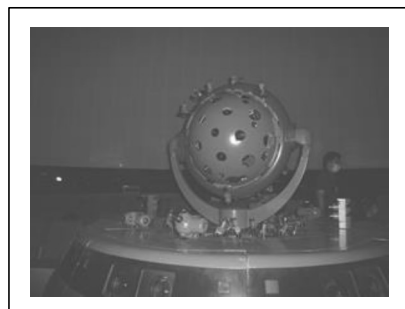
南部ブロック研修会 長野市立博物館 体験レポート

塩崎小学校 PTA

7月某日、長野市立博物館で研修会のプログラムとは少々異なりますが、施設見学と体験をさせていただきました。

■長野市立博物館(常設展示)

展示の中には、私たちが住んでいる地域から発見された資料や遺跡の紹介があり、長い年月をかけて今のように形成されてきた歴史を身近に感じられた。また、子供たちは学校の見学で訪れており、一緒に見学したことはなかったが、「ここは住んでいる場所の出来事だよ」と話をしながら見学ができてよい機会だった。



■プラネタリウム鑑賞

「季節の星座」では、今の時期に見える春の大三角形、夏の大三角形の見える方角・見つけ方の説明があった。学校の理科の学習で一緒に探した星を詳しく知ることができて、親子でとても盛り上がった。後半の「オーロラ」では、太陽風と地球の大气が衝突して放つ光の現象(=オーロラ)について、わかり易い映像と解説で紹介されていた。

■親子で凧づくり体験

スタッフの方に教えていただきながら、子供メインで制作に取り組んだ。できあがった凧が揚がる様子の子供たちは喜んでた。凧づくり体験後、スタッフの方から他の作品についても見せていただき、子供たちは「ぶんぶんごま」に興味津々で、複数のこまを回して楽しんでいた。



■見学・体験して

新型コロナウイルスの関係で、人とのかわりを持って何かに取り組むことはとても大切だと感じている。本来であれば大勢の方々と取り組むことでさまざまなアイデアが生まれ、それを見て刺激を受けることがあったらと思う。展示やプラネタリウムは、学校での子供たちの学習にも通じるものがあり、大人も新しい気づきがあった。今、子供は何に興味があり、何が楽しいと思っているのか？何に苦手意識があるのか？など、一緒に体験することで子供の様子が分かった。あらためて、今しかない子供と過ごせるこの時期、親子で共有する時間を大切にしていきたい。

子供たちは、体験会の凧づくりが楽しかったようで、翌週には大きな凧にも挑戦していた。

■最後に

今回の研修会について、こころよく凧づくりのキットを考え用意してくださった長野市立博物館のスタッフの皆様にご感謝いたします。ありがとうございました。

長野市立博物館では、趣向を凝らした常設展示やプラネタリウム鑑賞、子供たちのために、楽しい企画や体験を考え準備してくださっています。ぜひ、時間を作りお子様と一緒に参加してみたいはいかがでしょうか。

長野市立博物館 <https://www.city.nagano.nagano.jp/museum/>



凧を作りましょう

1 : 材料の竹ヒゴ (90 cm) を、「竹ヒゴ 1」 (ca.50 cm) と「竹ヒゴ 2」 (ca.40cm) の 2本に切る。

「竹ヒゴ 1」のおよそ 1:2 (端から約 16.7 cm) の位置と、「竹ヒゴ 2」の中央点 (端から約 20 cm) を重ねて、ca.5×5 cm のガムテープ (2枚) を表側と裏側から別々に貼って、固定する (「固定した竹ヒゴ」) (図 1)。

2 : 「固定した竹ヒゴ」を、材料のセロハンの「紙」の上に置き、数カ所 (5箇所以上) をセロテープで留め、最終の凧よりも 2~3 cm 大きい位置 (線) で、ハサミで切り取る (図 2)。切り取った「紙」を (「固定した竹ヒゴ」に留めたままの状態) で、竹ヒゴの両端を結ぶそれぞれの線に合わせて、その内側に折り曲げる。その折り曲げた状態を保つために、セロテープで留める (10箇所以上) (図 3)。

3 : 材料の 3本の紐を凧の「尾」として、「竹ヒゴ 1」の最下端 D に固定する (図 3、図 4)。

4 : 凧の周りの風の乱れを少なくするため、材料の糸から適当な長さに切った「糸 1」 (40cm 位) の両端を、「竹ヒゴ 2」の両端に固定し (結び)、凧を反らせるように、凧全体に丸みをつける (図 4)。

5 : 材料の糸から、糸 1, 糸 2, 糸 3 を切り取った残りの、長さ約 5 m の糸 : 「糸 0」を、凧を引く (揚げる) 糸として、さらに、「尾」に発生する風による力の効果を高めるなどの観点から、凧の「紙」の面から少し離れた A 点 (図 4) に固定する (結び)。このため、適当な長さに切った「糸 2」 (60cm 位)、「糸 3」 (55cm 位) を、それぞれ「竹ヒゴ 1」、「竹ヒゴ 2」の両端に固定し (結び)、「糸 2」の中央点と「糸 3」を、たるみの生じないように交差させ、且つその交点で軽く結び、A とする。

以上で「凧」の製作は終わりです

★ 凧が思うように飛ばない (上がらない、動きが不安定) 場合には、A 点を「糸 2」上で、上げ下げする、また「尾」の長さ、重さ (少量の水を入れた小さなペットボトルを使って) を変える等して、再挑戦する。

キット・用具

- ・キット内容 : 竹ヒゴ 90cm (1本)、セロハン (1枚)、糸 (約 6m)、3本の紐 (約 2m)
- ・用具 (家庭で用意) : ハサミ、ガムテープ、セロテープ・油性ペン・カラーペン

凧づくりの工夫・遊びの工夫

- ・どのようにしたら良く凧が揚がるようになるか工夫してみよう。
- ・風の強さによる凧を引っ張る強さ、走る速さを工夫してみよう。
- ・別の材料を準備し、サイズ・形の違う凧づくりにも挑戦してみよう。

